

〔論文〕

熱田区の地域課題とニーズおよび人的ストックの現状

——区民対象アンケートの多重対応分析——*

佐藤 律久・杉浦 礼子・井澤 知旦

名古屋学院大学経済学部/商学部/現代社会学部

要 旨

本稿は、2019年に熱田区民を対象に実施したアンケート調査のデータに多重対応分析を適用することにより、熱田区地域課題、区民ニーズ、区民の人的ストックとしての可能性の3点について構造的かつ総合的に把握しようとするものである。分析によって得られた主要な知見は以下の2点である：①回答データは「地域活動への関心」、「自己実現欲求/安全欲求」、「私的充足/社会的充足への関心」、「地域の『内のつながり』/『外とのつながり』への関心」という4つの軸によって要約できる。②凝集型階層クラスター分析を①の結果に適用することにより、回答者を、「地域活動への関心が低いグループ」、「地域活動への関心が高く安全欲求を有するグループ」をはじめとする5つのグループに分類できる。これらの結果を得たのち、さらに②の分類と属性変数とのクロス分析を行い、性別や年代に関する各グループの特徴についても考察を行った。

キーワード：熱田区、地域課題、人的ストック、多重対応分析、クラスター分析

Problems, needs, and human capital stocks in Atsuta

——A multiple correspondence analysis of a survey in Atsuta Ward——

Norihisa SATO, Reiko SUGIURA, Tomokazu IZAWA

Faculty of Economics/Commerce/Contemporary Social Studies
Nagoya Gakuin University

※ 本研究は、文部科学省支援・私立大学研究ブランディング事業「ストック・シェアリングを通じた地域価値の編集による新世代型コミュニティの実現に向けた多層的研究」の助成の下で行った。

発行日 2022年10月31日

1. はじめに

本研究は私立大学研究ブランディング事業「ストック・シェアリングを通じた地域価値の編集による新世代型コミュニティの実現に向けた多層的研究」の一環で、「公共施設・公共空間の有効活用研究」をテーマとして、有効活用への取組みにかかわる方向性についてまとめたものである。

すなわち、全体テーマは、地域に賦存する空間・時間・人間（人材）等のストックをシェアリングすることで、地域価値を編集することで新たな価値を生み出し、地域課題の解決を図ろうとするものである。この事業は名古屋市熱田区（本学所在）を研究対象地域にしているが、熱田区には大規模かつ多様な公共施設・公共空間のストックがあり、特に本学周辺では国際会議場や生涯学習センター、熱田球場などの公共施設や白鳥公園や白鳥庭園、熱田神宮公園や堀川などの公共空間が集積している。よって、これらの公共施設・公共空間を地域課題の解決に向けて、どのように活用（またはシェアリング）していくかが問われているのである。欧米では道路や公園・広場などの公共空間は一定のルールの下でオープンカフェ等の利用を促進したり、シェアリング先進都市ソウル特別市では、公共施設や学校を無料または低額料金で開放したりすることで、市民生活の水準を高めることに貢献している。

そこで、まずは公共施設や公共空間の有効活用するにあたって、地域課題は何なのか、地域ニーズは何なのか、さらにはそれら課題やニーズに対応できる人材の存在確認を通じて、地域のエンパワーメント（個々人の力を十二分に発揮し、自発的に活動する力）の水準はどれくらいかを把握するため、熱田区民を対象にアンケート調査を実施した。なお、人材の存在確認とは地域活動へ参画する、または参画する可能性のある人材や課題解決や地域ニーズに対処できるスキルを持った人材のことであり、まさに人的ストックの把握を行うものである。

さらに本研究の分析手法の特色は、区民アンケートの単純集計をもとにした分析にとどまらず、多重対応分析および凝集型階層クラスター分析を適用することで、熱田区民の地域課題や地域ニーズの各種要素間の連関性について、構造的かつ総合的に把握している。さらに同時に人的ストックによるそれらへの解決や充足の可能性についても整理している。

空間・時間・人間（人材）等のストックについて、区民だけでなく、区内に立地している事業所も対象にしていくことが重要であり、事業所の保有するスキルや資源をシェアリングする視点が必要である。事業所のヒューマンパワーを合わせて、地域のエンパワーメントが測られるべきであろう。この点については、次に論考していく予定である。

2. アンケート調査の概要と分析方法

2-1. アンケート調査の概要と一部設問の単純集計結果

本稿で分析対象とするアンケートは、「熱田区の暮らしと地域活動に関するアンケート調査」という名称で愛知県名古屋市熱田区在住者を対象に筆者らが実施したものである。前述の「公共施設・公共空間の有効活用研究」の一環として2019年11月から12月にかけて行われ、主たる調査目的を①生活上の困りごとなど熱田区民が抱える地域課題の把握、②「場」やサービスへのニーズの把握（公共

表1 アンケート調査の概要

項目	内容
調査地域	愛知県名古屋市長熱田区
調査対象者	熱田区在住者
実施期間	2019年11月～12月
配付・回収方法	○配布方法：学区ごとに、町内会長に依頼し各世帯へ配布。学区ごとの配布数は人口比率による按分。町内会ごとの配布数は均等割り。 ○回収方法：料金受取人払郵便を利用
回収数	742（回収率62.6％）

施設や公共空間の利活用やサービス展開へのニーズ)、③人的ストックの把握(地域活動への参画人材、人材が有するスキル等)の3点とするものであった。調査票の配布は学区ごとに町内会長を通じて行い、料金受取人払郵便により回収した。また、学区ごとの配布数は学区人口比率による按分とし、町内会ごとの配布数は町内会数による均等割りとした。回収数は742であり、回収率は62.6%であった。参照の便のために設問項目の一覧(表19)および調査票見本を本稿の末尾に付す。

アンケート設問のうち、第3章における多重対応分析の対象となる問2～4、問6、および個人属性(F)と世帯属性(問1)の単純集計結果を表2～表8にまとめる。「はじめに」でも述べた通り、本稿は、これらの設問に対する回答の傾向や特徴を構造的・総合的に分析することを主眼とするため、個々の単純集計結果についての詳しい検討は割愛する¹⁾。ただし、回答者属性のうち、特に年代に関して熱田区の実際の分布と乖離が大きく、30歳代以下の割合が少ない一方、60歳代と70歳代の割合が顕著に高くなっている点に留意が必要である²⁾。

- 1) 他の設問のものを含めた個々の単純集計結果の検討については、2022年3月発刊の報告書(杉浦他、2022)を参照されたい。
- 2) 2020年度の熱田区調査(熱田区、2020)によれば、30歳代以下、60歳代、70歳代の人口が全人口に占める割合は、順に33.7%、13.4%、14.9%である。

表2 問2（地域で生活する中での困りごとや不満）の単純集計

回答選択肢（選択数の多い順）	選択数	選択率（%）
19. 災害時の対応が不安	234	31.5
12. 近くに買い物や飲食店が少ない	168	22.6
03. 町内会など地域活動の負担が大きい	128	17.3
01. 地域や近所の人との付き合いが少ない	113	15.2
11. 自宅以外に気軽に過ごせる場がない	101	13.6
14. 身近に趣味を楽しむ場がない	99	13.3
09. 子どもが安心して遊べる場が少ない	95	12.8
16. 身近にスポーツや運動できる場がない	91	12.3
15. 身近に文化芸術に触れる場がない	73	9.8
02. 地域のことをよく知らない	67	9.0
18. 外国人が増え、コミュニケーションが不安	46	6.2
17. 地域の歴史や文化を感じられない	44	5.9
20. 身近での犯罪発生が多く、不安	35	4.7
04. 身近に話し相手や相談相手がいない	32	4.3
10. 子連れで気軽に出かけられる場が少ない	31	4.2
08. 緊急時や休日、放課後などに子どもを預ける所がない	20	2.7
06. 体が思うように動かず、生活に不安	18	2.4
07. 介護や子育ての負担が大きい	17	2.3
13. 近くで働く場が見つからない	17	2.3
05. 交通手段が不便で、外出しづらい	16	2.2
(無回答)	(128)	(17.3)
累計選択数	1445	194.7
回答対象者数	742	100.0

※選択率 = (選択数/回答対象者数) × 100

表3 問3-1（利用したい場やサービス：暮らしに関するもの）の単純集計

回答選択肢（選択数の多い順）	選択数	選択率（%）
13. 日常から離れてリフレッシュできる場	274	36.9
06. 身近で買い物できる場	162	21.8
09. 子どもがのびのびと遊べる場	161	21.7
03. 高齢者世帯の見守り	115	15.5
12. 障害者や要介護者等が安心して過ごせる場	87	11.7
10. 子連れでも気軽に入れる飲食店	82	11.1
07. 登下校や公園などでの子どもの見守り	78	10.5
14. ワークスペースや会議室など仕事に使える場	53	7.1
05. 移動販売や宅配など買い物物の支援	47	6.3
01. 話し相手のボランティア	33	4.4
11. 託児所や学童保育、ベビーシッターなどの子どもの受け入れ施設	25	3.4
04. 掃除、洗濯、調理など日常生活の援助	23	3.1
02. 送迎や付き添いなど外出時の支援	18	2.4
08. 子育てに関する交流や相談の場	18	2.4
(無回答)	(117)	(15.8)
累計選択数	1176	158.5
回答対象者数	742	100.0

※選択率 = (選択数/回答対象者数) × 100

※3つを超えて選択した回答者の回答分も含む

熱田区の地域課題とニーズおよび人的ストックの現状

表4 問3-2（利用したい場やサービス：地域コミュニティに関するもの）の単純集計

回答選択肢（選択数の多い順）	選択数	選択率（%）	
12. 安否確認など災害時の助け合い	220	29.6	
06. 誰もが気軽に過ごせる居場所	193	26.0	
02. 近所や地域の人が気軽に集える場	168	22.6	
10. 地域ぐるみのイベントや祭り	131	17.7	
08. 地域の担い手を育てる場	127	17.1	
03. 世代の違う人が交流できる場	125	16.8	
13. 防犯パトロール	107	14.4	
01. 地域の相談窓口	70	9.4	
07. 地域情報の入手や発信、PRしやすい場	70	9.4	
05. 外国人との交流の場	54	7.3	
11. 地域に立地する企業と接する場	36	4.9	
09. 地域団体などの活動拠点や支援窓口	32	4.3	
14. 外国語の通訳や翻訳	28	3.8	
04. 若者同士が集える場	26	3.5	
(無回答)	(101)	(13.6)	
累計選択数	1387	186.9	
回答対象者数	742	100.0	

※選択率 = (選択数/回答対象者数) × 100

※3つを超えて選択した回答者の回答分も含む

表5 問3-2（利用したい場やサービス：まちづくりに関するもの）の単純集計

回答選択肢（選択数の多い順）	選択数	選択率（%）	
14. 災害時の避難場所	203	27.4	
08. スポーツや運動ができる場	195	26.3	
12. 緑や水、生き物など自然豊かな環境	168	22.6	
07. 堀川などの水辺に親しめる場	144	19.4	
10. 講座や教室などの生涯学習の場	134	18.1	
06. 雨の日でも遊びやイベント等に使える場	129	17.4	
01. 地域の歴史や文化を学べる場	101	13.6	
11. DIYなどモノづくりができる場	95	12.8	
09. 文化芸術に触れられる場	94	12.7	
13. 主要施設間の移動に便利な交通サービス	85	11.5	
02. 観光客が気軽に立ち寄れる店	59	8.0	
04. 地域外から大勢の人が集まるイベント	44	5.9	
03. 観光情報の入手や発信ができる場	37	5.0	
05. 自分で作った物などを販売できる場	30	4.0	
(無回答)	(79)	(10.6)	
累計選択数	1518	204.6	
回答対象者数	742	100.0	

※選択率 = (選択数/回答対象者数) × 100

※3つを超えて選択した回答者の回答分も含む

表6 問4（地域活動への参加頻度）の単純集計

回答選択肢	人数	割合 (%)
よく参加している	276	37.2
時々参加している	305	41.1
ほとんど参加していない	98	13.2
参加していない	50	6.7
わからない	5	0.7
無回答	8	1.1
計	742	100.0

表7 問6（今後参加してみたい地域活動）の単純集計

回答選択肢（選択数の多い順）	選択数	選択率 (%)
09. スポーツや健康づくり	250	33.7
08. 文化、芸術	146	19.7
07. 生涯教育	144	19.4
04. 防災	129	17.4
01. まちづくり	116	15.6
15. 歴史文化の保全・継承	105	14.2
02. 防犯	95	12.8
10. 環境保全・自然保護	88	11.9
13. 福祉・介護	76	10.2
17. 活動分野は決めていない	73	9.8
03. 交通安全	71	9.6
19. わからない	68	9.2
05. 子育て支援	61	8.2
11. 国際協力、国際交流	59	8.0
14. 保健・医療	57	7.7
16. 観光振興	36	4.9
06. 青少年の育成	34	4.6
18. 地域活動に参加したいと思わない	29	3.9
12. 男女共同参画社会の形成	17	2.3
無回答	46	6.2
累計選択数	1654	222.9
回答対象者数	742	100.0

※選択率 = (選択数/回答対象者数) × 100

熱田区の地域課題とニーズおよび人的ストックの現状

表8 左列：個人属性（F）の単純集計結果，右列：世帯属性（問1）の単純集計結果

個人属性（F）の単純集計結果				世帯属性（問1）の単純集計結果			
項目		回答数 (人)	割合(%)	項目		回答数 (人)	割合(%)
性別	男性	320	43.1%	居住地域	旗屋	65	8.8%
	女性	379	51.1%		白鳥	125	16.8%
	不明	43	5.8%		野立	99	13.3%
	計	742	100.0%		大宝	109	14.7%
年代	10歳代	1	0.1%		船方	171	23.0%
	20歳代	4	0.5%		千年	77	10.4%
	30歳代	43	5.8%		不明	3	0.4%
	40歳代	86	11.6%		計	742	100.0%
	50歳代	91	12.3%		居住年数	1年未満	4
	60歳代	200	27.0%	1～3年		13	1.8%
	70歳代	254	34.2%	3～10年		68	9.2%
	80歳以上	54	7.3%	10～20年		93	12.5%
	不明	9	1.2%	20年以上		561	75.6%
計	742	100.0%	不明	3		0.4%	
職業	会社員	114	15.4%	計	742	100.0%	
	公務員	8	1.1%	世帯構成	単身	69	9.3%
	自営業	96	12.9%		夫婦のみ	222	29.9%
	派遣・契約社員	19	2.6%		二世帯	331	44.6%
	パート・アルバイト	123	16.6%		三世帯	101	13.6%
	主婦・主夫	140	18.9%		その他	12	1.6%
	学生	1	0.1%		不明	7	0.9%
	無職	205	27.6%		計	742	100.0%
	その他	23	3.1%				
	不明	13	1.8%				
	列計	742	100.0%				

2-2. 分析方法

熱田区民の生活上の困りごと（地域課題）、「場」やサービスへのニーズ，人的ストックとしての可能性（特に地域活動への参加状況・参加意向）について前述のアンケート調査から構造的・総合的に把握するという目的を達するために，本稿では多重対応分析（Multiple Correspondence Analysis, MCA）を用いる。多重対応分析とは幾何学的なデータ分析方法の1つであり，特に行が個体（アンケート回答者），列がカテゴリカル変数（設問への回答）からなるデータに対し，それを低次元の空間における点の集まりとして表現することにより，データが内包する個体や変数同士の関係（複数の設問にまたがる回答パターン）について視覚的かつ総合的に分析することを可能にするものである³⁾。

分析においては，生活上の困りごとや不満について尋ねた問2と、「場」やサービスへのニーズを

3) 以下，多重対応分析に関する用語はLe Roux and Rouanet（2009）の邦訳書（大隈他，2021）に依拠する。

表9 消極的なカテゴリー一覧

設問	カテゴリ	設問	カテゴリ
問2	身近に話し相手や相談相手がいない (y) 交通手段が不便で、外出しづらい (y) 体が思うように動かず、生活に不安 (y) 介護や子育ての負担が大きい (y) 緊急時や休日、放課後などに子どもを預ける所がない (y) 子連れで気軽に出かけられる場が少ない (y) 近くで働く場が見つからない (y) 身近での犯罪発生が多く、不安 (y)	問3-2	若者同士が集える場 (y) 地域団体などの活動拠点や支援窓口 (y) 外国語の通訳や翻訳 (y)
問3-1	話し相手のボランティア (y) 送迎や付き添いなど外出時の支援 (y) 掃除、洗濯、調理など日常生活の援助 (y) 子育てに関する交流や相談の場 (y) 託児所や学童保育、ベビーシッターなどの子どもの受け入れ施設 (y)	問3-3	自分で作った物などを販売できる場 (y)
		問4	わからない
		問6	青少年の育成 (y) 男女共同参画社会の形成 (y) 地域活動に参加したいと思わない (y)

※カテゴリ名末尾の (y) は、Yes (選択) の意。

尋ねた問3-1～3-3、地域活動への参加状況を尋ねた問4、および地域活動への参加意向を尋ねた問6の、計6設問の回答データを用いる。ただし、問4以外はすべて複数選択の設問のため、それらの問における個々の選択肢を、Yes (選択) /No (不選択) の2値からなる独立した設問として扱うこととした。その結果、設問数は82となり、カテゴリ数は167となった。また、回答者について、問4以外のすべての設問についてNo (不選択) である場合、または問4に無回答である場合には分析対象から除外した (24人)。さらに、165カテゴリ中、21カテゴリは選択数が回答者総数の5%以下 (718名 \times 0.05=35.9) だったため、それらを「消極的なカテゴリ」として扱い (表9)、限定多重対応分析 (specific MCA) を適用した⁴⁾。

3. 分析結果

3-1. カテゴリの雲の分析 (主軸の解釈)

限定多重対応分析を適用することで得られる雲の次元数は高々 (167 - 21) - (82 - 21) = 85である。このうち、最初の9次元までの分散 (固有値)、修正分散率および累積修正分散率を表10にま

表10 第9主軸までの分散 (固有値)、修正分散率、累積修正分散率

主軸	1	2	3	4	5	6	7	8	9
分散	0.037	0.030	0.027	0.025	0.023	0.022	0.021	0.020	0.019
修正分散率	33.090	16.710	11.370	8.390	6.490	5.280	4.160	3.320	2.370
累積修正分散率	33.090	49.800	61.170	69.560	76.050	81.330	85.490	88.810	91.180

4) R (version 4.1.2) のGDAtools (version 1.7.2) パッケージを使用した。

熱田区の地域課題とニーズおよび人的ストックの現状

とめた。これらの値と修正分散率の減少率、軸の解釈可能性などを検討した結果、第4主軸までを解釈することとした。累積修正分散率は69.6%であり、やや低い値であるが、第5あるいは第6主軸までを考慮に入れることによる分析の複雑化は避けるべきと判断した。

以下では、第1主軸から第4主軸までの各軸について、それへの寄与率が平均以上となるカテゴリの吟味によって意味づけ・解釈を行う。

まず、表11は、第1主軸への寄与率がその平均値以上のカテゴリを、第1主座標の符号別にまとめたものである（第1主座標が負のものを左に、正のものを右に記載している）。寄与率の合計が80%を超えていることから、第1主軸の両極はこれらのカテゴリによってよく要約されているといえる。

また、図1はそれらのカテゴリを第1主軸と第2主軸からなる平面上に布置したものである⁵⁾。このうち、図の左側（軸の負方向）には、問6（今後参加してみたい地域活動）の「わからない」（Q6_A19_y）や「活動分野は決めていない」（Q6_A17_y）、問4（地域活動への参加頻度）の「ほとんど

表11 第1主軸を解釈するために用いた39カテゴリとその寄与率

左/下側(負の主座標)			右/上側(正の主座標)		
連番	選択肢 (yは選択, nは不選択の意)	寄与率	連番	選択肢 (yは選択, nは不選択の意)	寄与率
1	Q6_A19_y わからない (y)	5.836	1	Q6_A04_y 防災 (y)	5.894
2	Q4_A3 ほとんど参加していない	1.990	2	Q6_A01_y まちづくり (y)	5.413
3	Q6_A04_n 防災 (n)	1.291	3	Q6_A03_y 交通安全 (y)	5.059
4	Q6_A09_n スポーツや健康づくり (n)	1.181	4	Q6_A02_y 防犯 (y)	4.894
5	Q6_A17_y 活動分野は決めていない (y)	1.145	5	Q6_A05_y 子育て支援 (y)	4.405
6	Q6_A01_n まちづくり (n)	1.043	7	Q6_A13_y 福祉・介護 (y)	3.607
7	Q4_A4 参加していない	0.769	8	Q6_A14_y 保健・医療 (y)	3.069
8	Q6_A02_n 防犯 (n)	0.746	9	Q6_A10_y 環境保全・自然保護 (y)	2.979
			10	Q6_A15_y 歴史文化の保全・継承 (y)	2.573
			11	Q6_A07_y 生涯教育 (y)	2.469
			12	Q6_A08_y 文化、芸術 (y)	2.441
			13	Q2_A15_y 身近に文化芸術に触れる場がない (y)	2.363
			14	Q2_A16_y 身近にスポーツや運動できる場がない (y)	2.232
			15	Q6_A09_y スポーツや健康づくり (y)	2.212
			16	Q3-2_A10_y 地域ぐるみのイベントや祭り (y)	1.910
			17	Q3-2_A03_y 世代の違う人が交流できる場 (y)	1.597
			18	Q6_A11_y 国際協力、国際交流 (y)	1.535
			19	Q3-1_A07_y 登下校や公園などでの子どもの見守り (y)	1.453
			20	Q4_A1 よく参加している	1.361
			21	Q2_A09_y 子どもが安心して遊べる場が少ない (y)	1.269
			22	Q6_A16_y 観光振興 (y)	1.259
			23	Q3-1_A09_y 子どもがのびのびと遊べる場 (y)	1.258
			24	Q3-2_A08_y 地域の担い手を育てる場 (y)	1.154
			25	Q3-3_A01_y 地域の歴史や文化を学べる場 (y)	1.092
			26	Q3-2_A11_y 地域に立地する企業と接する場 (y)	1.023
			27	Q2_A14_y 身近に趣味を楽しむ場がない (y)	0.942
			28	Q2_A19_y 災害時の対応が不安 (y)	0.867
			29	Q3-2_A02_y 近所や地域の人が気軽に集える場 (y)	0.842
			30	Q3-3_A09_y 文化芸術に触れられる場 (y)	0.754
			31	Q3-3_A08_y スポーツや運動ができる場 (y)	0.725
合計		14.002	合計		68.651

5) 図中の各点のラベルは「元の設問番号_元の設問における選択肢番号_選択・不選択の別」という規則で付されている（問4のみ選択肢番号まで）。例えば、「Q6_A01_n」は、問6の選択肢1を2値変数に変換したときの、「No（不選択）」に対応する点（カテゴリ）であることを意味する。

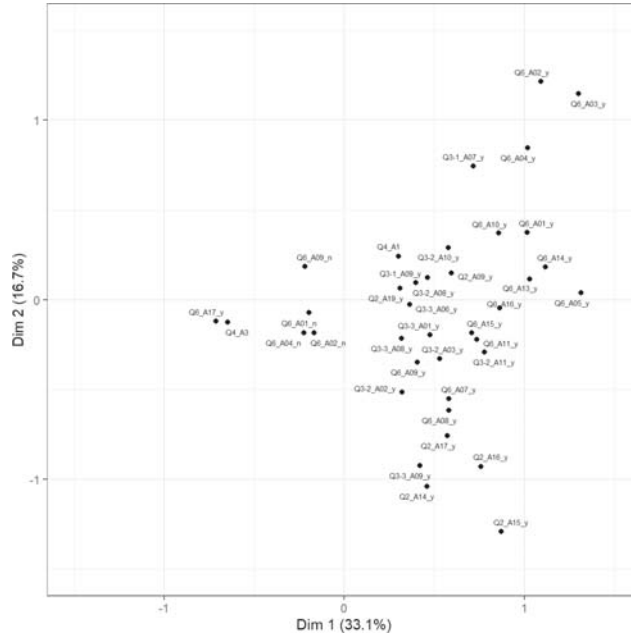


図1 第1主軸と第2主軸の平面（第1主軸の解釈のために抽出した39カテゴリを布置）

参加していない」(Q4_A3) など、地域活動への関心の低さや消極的な態度を示唆するカテゴリが位置している。また、問6については、「防災」、「スポーツや健康づくり」、「まちづくり」、「防犯」における「No（不選択）」カテゴリが位置している（順に、Q6_A04_n、Q6_A09_n、Q6_A01_n、Q6_A02_n）。これらは問6の単純集計においては選択率の高い項目である。

一方、図の右側（軸の正方向）には、問6の選択肢（具体的な活動項目を述べたもの）からなる設問の「Yes（選択）」カテゴリがほぼすべて位置しており⁶⁾、第1主軸への寄与率は合計で50%を超えている。また、問2（地域に関する困りごとや不満）や問3（利用したい「場」やサービス）の選択肢からなる設問については、特に「場」に関する設問の「Yes（選択）」カテゴリが多く位置している。また、寄与率は相対的に小さいものの、問4に属するカテゴリとして「よく参加している」も位置している。これらは、総合的には地域活動への関心の高さや積極的な態度を示すものといえる。

以上から、第1主軸を「地域活動への関心」を表す軸と解釈し、特にその負方向（左側）の極は低い関心に対応し、正方向の極は高い関心に対応するものとみなす。

次に、第2主軸の解釈を行う。まず、当該軸への寄与率が平均以上であることを基準にして、全部で34個のカテゴリを抽出し（表12）、それらを第1主軸と第2主軸の平面に布置した図2を描いた。

図の下側（軸の負方向）には、問2（の選択肢からなる設問）に属するカテゴリとして「身近に文化芸術に触れる場がない（y）」、「身近に趣味を楽しむ場がない（y）」、「身近にスポーツや運動できる場がない（y）」などが位置している（カテゴリ名末尾の（y）は「Yes（選択）」カテゴリであるこ

6) 消極的なカテゴリとした「青少年の育成（y）」、「男女共同参画社会の形成（y）」のみ含まれていない。

熱田区の地域課題とニーズおよび人的ストックの現状

表12 第2主軸を解釈するために用いた34カテゴリとその寄与率

左/下側(負の主座標)			右/上側(正の主座標)				
連番		選択肢 (yは選択, nは不選択の意)	寄与率	連番		選択肢 (yは選択, nは不選択の意)	寄与率
1	Q2_A15_y	身近に文化芸術に触れる場がない (y)	6.949	1	Q6_A02_y	防犯 (y)	8.231
2	Q2_A14_y	身近に趣味を楽しむ場がない (y)	6.093	2	Q6_A03_y	交通安全 (y)	5.567
3	Q2_A16_y	身近にスポーツや運動できる場がない(y)	4.826	3	Q6_A04_y	防災 (y)	5.566
4	Q3-3_A09_y	文化芸術に触れられる場 (y)	4.184	4	Q3-2_A13_y	防犯パトロール (y)	3.088
5	Q3-1_A13_y	日常から離れてリフレッシュできる場(y)	4.135	5	Q3-1_A13_n	日常から離れてリフレッシュできる場(n)	2.522
6	Q6_A08_y	文化, 芸術 (y)	2.749	6	Q3-1_A07_y	登下校や公園などでの子どもの見守り(y)	2.090
7	Q3-3_A10_y	講座や教室などの生涯学習の場 (y)	2.549	7	Q6_A01_y	まちづくり (y)	1.243
8	Q3-2_A02_y	近所や地域の人々が気軽に集える場 (y)	2.435	8	Q3-1_A03_y	高齢者世帯の見守り (y)	1.138
9	Q6_A07_y	生涯教育 (y)	2.343	9	Q6_A10_y	環境保全・自然保護 (y)	0.989
10	Q2_A11_y	自宅以外に気軽に過ごせる場がない (y)	1.910	10	Q4_A1	よく参加している	0.979
11	Q2_A01_y	地域や近所の人との付き合いが少ない(y)	1.821	11	Q2_A14_n	身近に趣味を楽しむ場がない (n)	0.975
12	Q6_A09_y	スポーツや健康づくり (y)	1.816	12	Q6_A09_n	スポーツや健康づくり (n)	0.970
13	Q3-2_A06_y	誰もが気軽に過ごせる居場所 (y)	1.543	13	Q2_A15_n	身近に文化芸術に触れる場がない (n)	0.786
14	Q2_A17_y	地域の歴史や文化を感じられない (y)	1.289	14	Q3-2_A02_n	近所や地域の人々が気軽に集える場 (n)	0.738
15	Q6_A02_n	防犯 (n)	1.255	15	Q6_A08_n	文化, 芸術 (n)	0.696
16	Q6_A04_n	防災 (n)	1.219	16	Q2_A16_n	身近にスポーツや運動できる場がない(n)	0.692
17	Q2_A02_y	地域のことをよく知らない (y)	0.854				
18	Q3-3_A08_y	スポーツや運動ができる場 (y)	0.741				
合計			48.710	合計			36.270

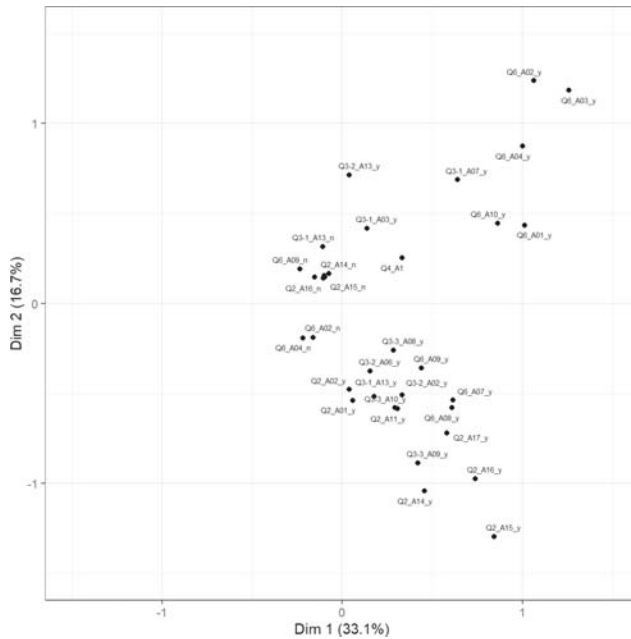


図2 第1主軸と第2主軸の平面(第2主軸の解釈のために抽出した34カテゴリを布置)

とを意味する)。また、問3に属するカテゴリとして「文化芸術に触れられる場 (y)」、「日常から離れてリフレッシュできる場 (y)」、「講座や教室などの生涯教育の場 (y)」、「近所や地域の人が気軽に集える場 (y)」などが位置している。さらに、問6についても上記の内容に関連する「Yes (選択)」カテゴリが位置している。これらの内容は多岐にわたるものの、趣味・教養ないし他者との交流に関する項目が多く、総じて自己実現的な活動に関するものといえる。

一方、図の上側(軸の正方向)には、問6に属する「防犯 (y)」、「交通安全 (y)」、「防災 (y)」などが位置しており、特に高い寄与率を示している。また、問3に属するカテゴリとして「防犯パトロール (y)」、「登下校や公園などでの子どもの見守り (y)」、「高齢者世帯の見守り (y)」などが位置している。これらはいずれも地域の安全・安心にかかわるカテゴリであり、人々が前段のような自己実現的活動を希求する上での暗黙の前提となる要素である。

第2主軸の上下におけるこのような対比は、A.マズローの欲求5段階説における「自己実現欲求」と「安全欲求」の2語によって簡潔に表現することができる。そこで、第2主軸を「自己実現欲求/安全欲求」の軸とし、その下側を「自己実現欲求」の極、上側を「安全欲求」の極と定める。

次に、第3主軸の解釈を行う。表13は、第3主軸への寄与率が平均以上である全31カテゴリを抽出したものである。また、図3はそれらを布置した第3主軸と第4主軸の平面である。

まず、図の左側(軸の負方向)には、問3に属するカテゴリとして「子どもがのびのびと遊べる場 (y)」、「スポーツや運動ができる場 (y)」、「雨の日でも遊びやイベント等に使える場 (y)」、「登下校や公園などでの子どもの見守り (y)」などが位置している。このうち、最初の2カテゴリが第3主軸への特に高い寄与率(10%前後)を示している。また、問2に属するカテゴリとして「子どもが安心して遊べる場が少ない (y)」、「身近にスポーツや運動できる場がない (y)」が位置している。さらに、問6に属するカテゴリとしては「スポーツや健康づくり (y)」、「子育て支援 (y)」が位置している。

一方、図の右側(軸の正方向)には、問6に属するカテゴリとして「歴史文化の保全・継承 (y)」、「環境保全・自然保護 (y)」、「福祉・介護 (y)」、「国際協力、国際交流 (y)」、「観光振興 (y)」などが位置しており、特に最初の2カテゴリの寄与率が高い。また、問3に属するカテゴリとして「移動販売や宅配など買い物の支援 (y)」、「高齢者世帯の見守り (y)」、「観光情報の入手や発信ができる場 (y)」などが位置している。なお、「スポーツや運動ができる場」・「子どもがのびのびと遊べる場」の「No (不選択)」カテゴリも高い寄与率とともに位置している。

図の右に位置するカテゴリの内容は多岐にわたるが、熱田区の地域社会全体としての充足・価値向上を希求するものとして総括でき、それと対比する場合には、左側に位置するカテゴリは(特に子どもにかかわる)私的な充足に関するものとみなすことができよう。以上から、第3軸を「私的充足への関心」と「社会的充足への関心」を両極に持つ軸と解釈する。

最後に、第4主軸の解釈を行う。当該軸への寄与率が平均以上であるカテゴリは全部で33個あり、それらをまとめたものが表14である。また、図4はそれらを布置した第3主軸と第4主軸の平面である。

まず、図の下側(軸の負方向)には、問3に属するカテゴリとして「災害時の避難場所 (y)」、「安否確認など災害時の助け合い (y)」、「障害者や要介護者等が安心して過ごせる場 (y)」、「高齢者世帯の見守り (y)」などが位置している。また、問2に属するカテゴリとして、「災害時の対応が不安 (y)」、

熱田区の地域課題とニーズおよび人的ストックの現状

「自宅以外に気軽に過ごせる場がない (y)」が位置している。

一方、図の上側（軸の正方向）には、問6に属するカテゴリとして、「国際協力, 国際交流 (y)」, 「観

表13 第3主軸を解釈するために用いた31カテゴリとその寄与率

左/下側(負の主座標)			右/上側(正の主座標)		
連番	選択肢 (yは選択, nは不選択の意)	寄与率	連番	選択肢 (yは選択, nは不選択の意)	寄与率
1	Q3-1_A09_y 子どもがのびのびと遊べる場 (y)	11.091	1	Q6_A15_y 歴史文化の保全・継承 (y)	3.910
2	Q3-3_A08_y スポーツや運動ができる場 (y)	9.766	2	Q3-3_A08_n スポーツや運動ができる場 (n)	3.641
3	Q2_A09_y 子どもが安心して遊べる場が少ない (y)	9.603	3	Q3-1_A09_n 子どもがのびのびと遊べる場 (n)	3.180
4	Q3-3_A06_y 雨の日でも遊びやイベント等に使える場(y)	5.543	4	Q6_A10_y 環境保全・自然保護 (y)	2.311
5	Q3-1_A07_y 登下校や公園などでの子どもの見守り(y)	5.428	5	Q3-1_A05_y 移動販売や宅配など買い物の支援 (y)	1.922
6	Q2_A16_y 身近にスポーツや運動できる場がない(y)	3.857	6	Q2_A09_n 子どもが安心して遊べる場が少ない (n)	1.447
7	Q6_A09_y スポーツや健康づくり (y)	2.605	7	Q6_A13_y 福祉・介護 (y)	1.422
8	Q3-2_A10_y 地域ぐるみのイベントや祭り (y)	2.155	8	Q6_A09_n スポーツや健康づくり (n)	1.392
9	Q3-1_A10_y 子連れでも気軽に入れる飲食店 (y)	1.745	9	Q3-3_A06_n 雨の日でも遊びやイベント等に使える場 (n)	1.203
10	Q6_A05_y 子育て支援 (y)	0.923	10	Q6_A11_y 国際協力, 国際交流 (y)	1.190
11	Q3-2_A13_y 防犯パトロール (y)	0.792	11	Q6_A16_y 観光振興 (y)	1.127
			12	Q3-1_A03_y 高齢者世帯の見守り (y)	1.111
			13	Q3-1_A12_y 障害者や要介護者等が安心して過ごせる場 (y)	1.037
			14	Q3-1_A06_y 身近で買い物できる場 (y)	1.006
			15	Q3-3_A03_y 観光情報の入手や発信ができる場 (y)	0.989
			16	Q2_A12_y 近くに買い物や飲食店が少ない (y)	0.976
			17	Q3-3_A09_y 文化芸術に触れられる場 (y)	0.906
			18	Q3-3_A01_y 地域の歴史や文化を学べる場 (y)	0.818
			19	Q3-1_A14_y ワークスペースや会議室など仕事に使える場(y)	0.743
			20	Q6_A07_y 生涯教育 (y)	0.730
合計		53.508	合計		29.588

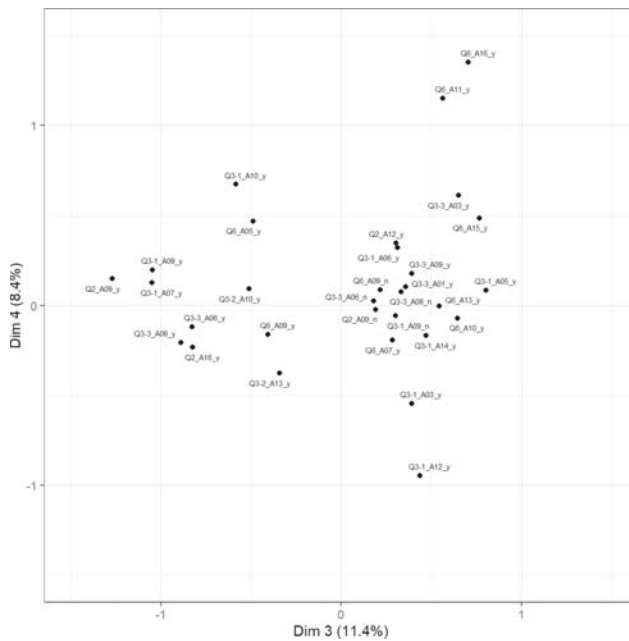


図3 第3主軸と第4主軸の平面（第3主軸の解釈のために抽出した31カテゴリを布置）

光振興 (y)」などが高い寄与率とともに位置している。また、問3に属するカテゴリとして、「外国人との交流の場 (y)」、「観光客が気軽に立ち寄れる店 (y)」、「子連れでも気軽に入れる飲食店 (y)」などが位置している。

いずれの方向においてもカテゴリの内容は多岐にわたるが、第4主軸の下側には、災害時の対応や

表 14 第4主軸を解釈するために用いた33カテゴリとその寄与率

左/下側(負の主座標)			右/上側(正の主座標)		
連番	選択肢 (yは選択, nは不選択の意)	寄与率	連番	選択肢 (yは選択, nは不選択の意)	寄与率
1	Q3-3_A14_y 災害時の避難場所 (y)	8.731	1	Q6_A11_y 国際協力, 国際交流 (y)	5.361
2	Q3-2_A12_y 安否確認など災害時の助け合い (y)	7.735	2	Q3-2_A05_y 外国人との交流の場 (y)	4.639
3	Q2_A19_y 災害時の対応が不安 (y)	6.922	3	Q6_A16_y 観光振興 (y)	4.495
4	Q3-1_A12_y 障害者や要介護者等が安心して過ごせる場(y)	5.254	4	Q3-3_A14_n 災害時の避難場所 (n)	3.442
5	Q3-1_A03_y 高齢者世帯の見守り (y)	2.336	5	Q3-2_A12_n 安否確認など災害時の助け合い (n)	3.417
6	Q2_A11_y 自宅以外に気軽に過ごせる場がない (y)	2.130	6	Q2_A19_n 災害時の対応が不安 (n)	3.325
7	Q3-2_A02_y 近所や地域の人が気軽に集える場 (y)	1.892	7	Q3-3_A02_y 観光客が気軽に立ち寄れる店 (y)	3.320
8	Q3-1_A13_y 日常から離れてリフレッシュできる場 (y)	1.325	8	Q3-1_A10_y 子連れでも気軽に入れる飲食店 (y)	2.512
9	Q3-2_A06_y 誰もが気軽に過ごせる居場所 (y)	1.135	9	Q6_A08_y 文化, 芸術 (y)	1.966
10	Q3-2_A13_y 防犯パトロール (y)	1.034	10	Q6_A15_y 歴史文化の保全・継承 (y)	1.697
11	Q6_A04_y 防災 (y)	0.940	11	Q2_A12_y 近くに買い物や飲食店が少ない (y)	1.355
12	Q6_A17_y 活動分野は決めていない (y)	0.869	12	Q3-1_A06_y 身近で買い物できる場 (y)	1.144
13	Q2_A01_y 地域や近所の人との付き合いが少ない (y)	0.769	13	Q3-3_A03_y 観光情報の入手や発信ができる場 (y)	0.950
14	Q3-3_A10_y 講座や教室などの生涯学習の場 (y)	0.761	14	Q3-3_A04_y 地域外から大勢の人が集まるイベント (y)	0.930
15	Q4_A4 参加していない	0.690	15	Q6_A05_y 子育て支援 (y)	0.919
			16	Q3-2_A11_y 地域に立地する企業と接する場 (y)	0.913
			17	Q3-1_A13_n 日常から離れてリフレッシュできる場 (n)	0.808
			18	Q3-1_A12_n 障害者や要介護者等が安心して過ごせる場(n)	0.715
合計		42.522	合計		41.908

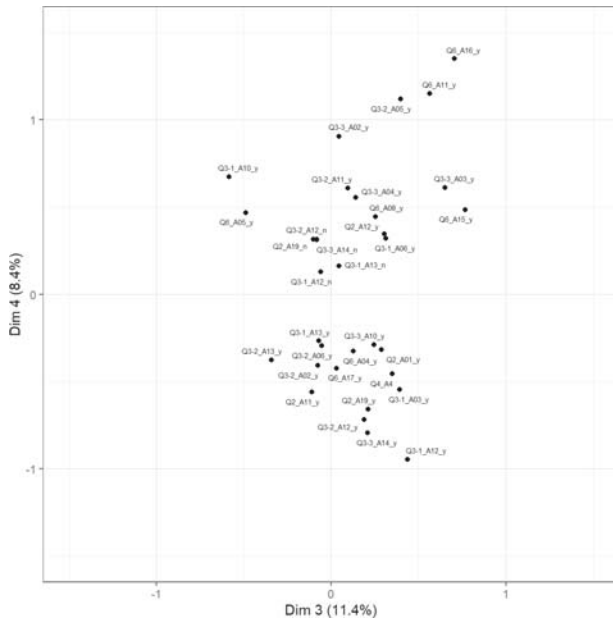


図4 第3主軸と第4主軸の平面(第4主軸の解釈のために抽出した33カテゴリを布置)

地域の高齢者・障害者のケアなど、熱田区という地域の「内側」におけるつながり・関係性に関する事柄が多く位置している。一方、上側には、国際協力や観光など、地域の「外」との関係に関するカテゴリが多く含まれている。これらのことから、第4主軸を「地域の『内のつながり』への関心」と「地域の『外とのつながり』への関心」を対比する軸と解釈する。

3-2. 個人の雲の分析（凝集型階層クラスター分析）

本節では、前節で行った各軸の意味づけにもとづいて各平面における個体（回答者）の雲の形状を概観したのち、凝集型階層クラスター分析を適用して回答者を5つのグループに分類し、その特徴を分析する。

まず、図5は、718名の回答者を、多重対応分析から得られた主座標をもとに、第1-2主平面から第3-4主平面までの6つの主平面に布置したものである。最初に左列の3つの平面を見ると、第1主軸での分布に偏りがあり、特に負方向（左側）よりも正方向（右側）のばらつきの方が大きい。実際、負の第1主座標と正の第1主座標に分けて分散を求めると、順に0.010、0.021であり、2倍程度の差がある。また、第2主座標から第4主座標までの各主座標に関するばらつきを見ると、負の第1主座標を持つ回答者に関するばらつきの方が正の第1主座標を持つ回答者のものよりも大きいことがわかる（分散の大きさを比較すると、第2主座標から順に、2.98倍、2.01倍、1.74倍である）。これらのことは、地域活動への関心が低い回答者の方が相対的に均質的であることを示唆している。なお、第1主軸を含まない右列の3つの平面については、分布に大きな偏りは見られない。

次に、クラスター分析を適用した結果を述べる。最初に、各回答者の第1主座標から第4主座標までを変数として凝集型階層クラスタリング（ユークリッド距離、Wald法）を適用したところ、各種の指標から5が適切なクラスター数として示唆されたため⁷⁾、これを採用することとした。

表15および図6は各クラスターの主座標の平均値を求めたものである。また、図7および図8は、各クラスターに属する個体の部分雲を、集中楕円とともに描いたものである。ただし、クラスター間の区別が明瞭になる主平面——第1、第2クラスターは第1-2主平面、第3、第4、第5クラスターは第3-4主平面——を選んで描いている。

5つのクラスターの特徴と解釈（意味づけ）を以下に述べる。まず、第1クラスター（C1）は、第1主座標の平均値が（絶対値の大きい）負数である点が特徴的であることから、地域活動への関心が低い回答者のグループと解釈できる。このクラスターには全体の19.1%の回答者が属している。また、他の主座標の平均値は0に近く、図7の集中楕円も小さいことから⁸⁾、地域活動への志向に関する均質性が相対的に高いことが示唆される。

第2クラスター（C2）は、第2主座標の平均値（正数）が大きいグループである。すなわち、安全欲求を有する回答者のグループといえる。また、第1主座標の平均値も次いで大きな正数であり、地

7) 30の指標から最適なクラスター数を提案するRのNbClustパッケージを適用した結果、クラスター数5が最多の7指標により支持された。

8) 図の掲載は割愛するものの、他の主平面においても他クラスターよりも小さな集中楕円が得られた。

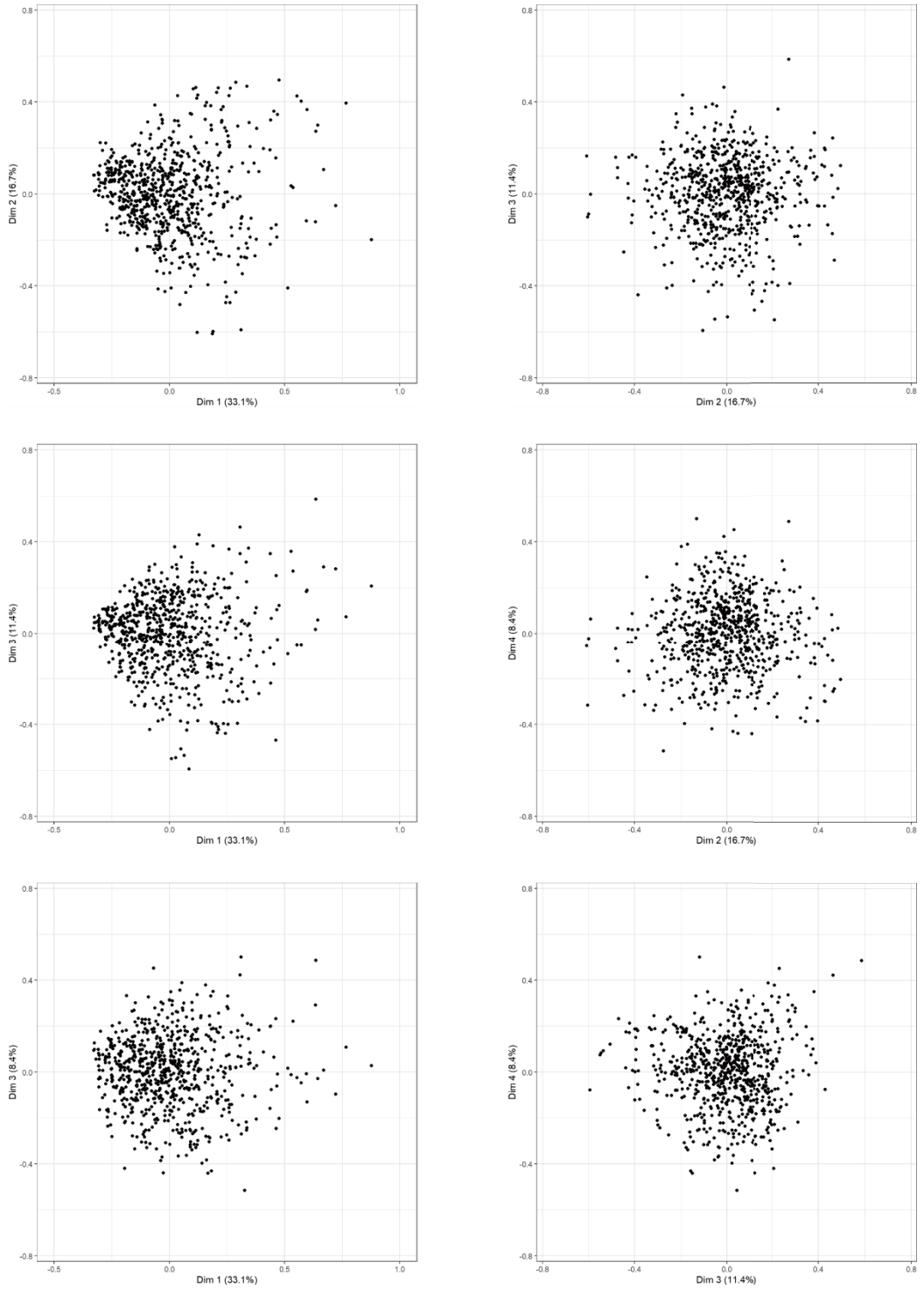


図5 個体の雲（左列上から第1-2，第1-3，第1-4主平面，右列上から第2-3，第2-4，第3-4主平面）

表 15 各クラスターの構成人数と主座標の平均値

クラスター	C1	C2	C3	C4	C5
総数（人）	137	134	91	165	191
第1主座標	-0.244	0.120	0.024	0.021	0.062
第2主座標	0.048	0.206	-0.021	-0.125	-0.061
第3主座標	0.003	0.017	-0.283	0.063	0.066
第4主座標	0.023	-0.065	0.032	-0.151	0.145

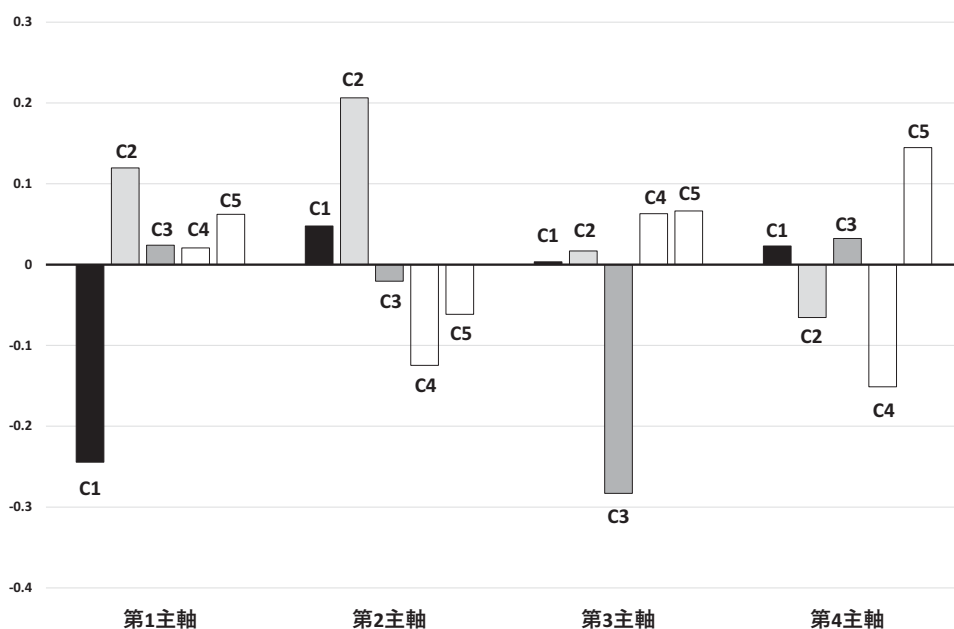


図 6 各クラスターの主座標の平均値

域活動への関心が高いグループでもある。このクラスターには全体の18.7%の回答者が属する。

第3クラスター（C3）は、第3主座標の平均値が相対的に大きな負数である点が特徴である。したがって、私的充足への志向を持つ回答者のグループと解釈できる。このクラスターに属する回答者の割合は全体の12.7%であり、5つのクラスターの中で最も小さい。

第4クラスター（C4）は、第4主座標と第2主座標の平均値が比較的大きな負数である点が特徴であり、地域の「内のつながり」への関心と自己実現欲求を有する回答者のグループと解釈できる。このクラスターには全体の23.0%の回答者が属している。

最後に、第5クラスター（C5）は、第4主座標の平均値が相対的に大きな正数であり、したがって地域の「外とのつながり」への関心を持つ回答者のグループである。このクラスターに属する回答者の割合は全体の26.6%であり、5つのクラスターの中で最も大きい。

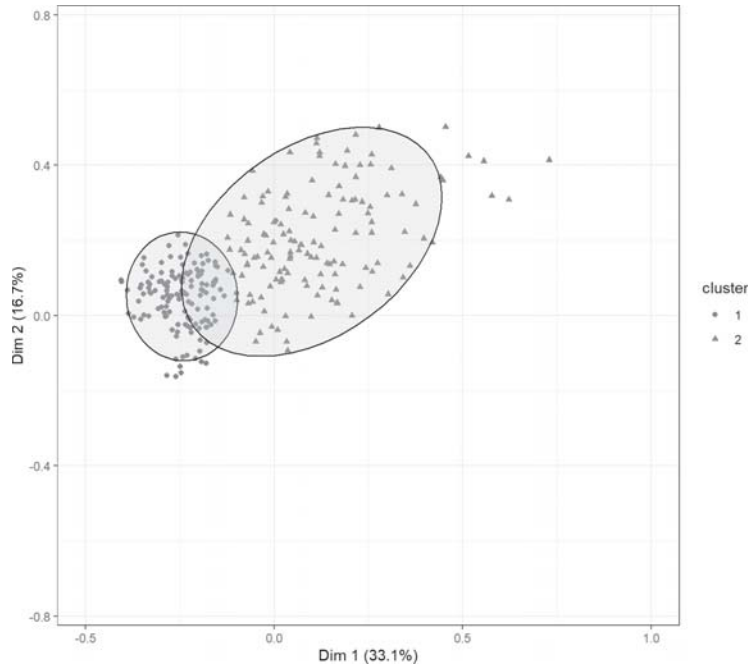


図7 第1-2主平面における，第1，第2クラスターに属する個体の部分雲

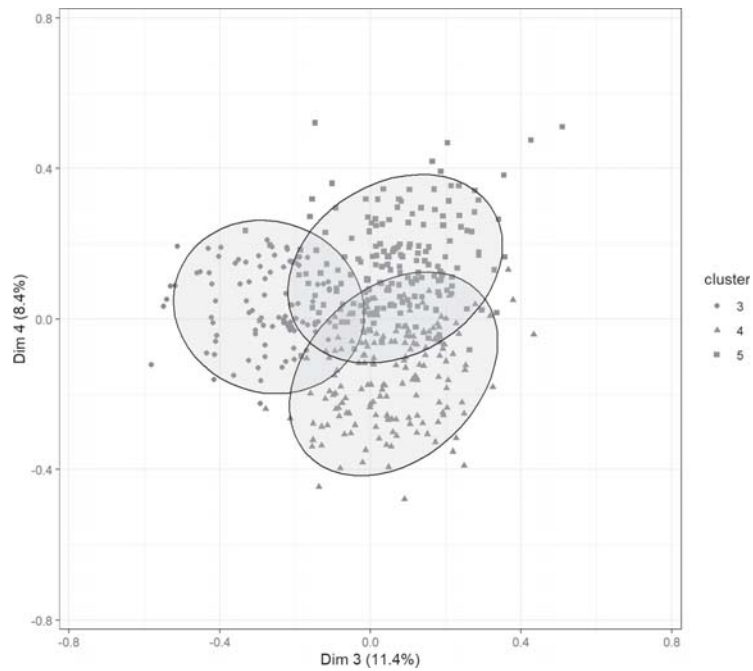


図8 第3-4主平面における，第3，第4，第5クラスターに属する個体の部分雲

以上の分類を踏まえた上で、クラスターと個人属性（性別、年代、職業）および世帯属性（居住学区、居住年数、世帯構成）とのクロス集計を行った（表16、表17）⁹⁾。まず、独立性の検定において帰無仮説（クラスター分類と当該属性変数が独立である）が有意水準5%で棄却されたのは、性別、年代、職業、居住地域、居住年数の5つであった。さらに、これらの属性について残差分析を行い、有意差（5%水準）が見られたセルには△または▼を表中の数字の後に付した（△は観察度数が期待度数より有意に多いことを、▼は有意に少ないことを意味する）。

以下では、残差分析から得られた各クラスターの特徴についてまとめる。まず、C1については、男性回答者の数が期待度数よりも有意に少ない一方、女性に関しては多い¹⁰⁾。また、年代では、40歳代と60歳代について有意に多い一方、70歳代については少ない。居住学区に関しては、大宝学区居住者について有意に少なく、居住年数が20年以上の回答者についても少ない。

次に、C2については、C1と対照的に、男性回答者の数が期待度数よりも有意に多く、女性については少ない。また、40歳代について少ない一方、70歳代については多い。また、職業に関しては、会社員と主婦・主夫について有意に少ない。さらに、居住学区では、旗屋と白鳥学区居住者について、居住年数では20年未満の居住者についてそれぞれ有意に少ない。

C3については、30歳代以下および40歳代の回答者が期待度数よりも有意に多い一方、60歳代・70歳代については少ない。職業では、会社員について有意に多く、無職については少ない。また、野立学区の居住者と、居住年数が20年未満の回答者については有意に多い。

C4に関しては、40歳代以下の回答者が期待度数よりも有意に少なく、自営業者についても少ない。また、居住年数が10年未満の回答者について有意に少ない一方、20年以上の回答者については多い。

最後に、C5については、自営業者と白鳥学区居住者の数が期待度数よりも有意に多い。

9) クロス分析を行うにあたっては、度数の少ないいくつかのカテゴリを統合するか、あるいは分析対象から除外した。

10) 本節における「多い」「少ない」の表現は、すべて（周辺度数から計算される）期待度数との比較におけるものである点に注意されたい。

表16 クラスターと個人属性（性別・年代・職業）の関係

		クラスター					n	独立性の 検定結果
		1	2	3	4	5		
性別	男性	50▼ (16.0)	74△ (23.7)	39 (12.5)	68 (21.8)	81 (26.0)	312	
	女性	82△ (22.4)	48▼ (13.1)	46 (12.6)	87 (23.8)	103 (28.1)	379	
	列計	132 (19.5)	122 (18.0)	85 (12.5)	155 (22.9)	184 (27.1)	691	$\chi^2=14.626$ p値=0.005
年代	30歳代以下	9 (18.8)	6 (12.5)	19△ (39.6)	3▼ (6.3)	11 (22.9)	48	
	40歳代	23△ (27.4)	9▼ (10.7)	21△ (25.0)	11▼ (13.1)	20 (23.8)	84	
	50歳代	18 (20.0)	14 (15.6)	11 (12.2)	23 (25.6)	24 (26.7)	90	
	60歳代	48△ (24.1)	31 (15.6)	16▼ (8.0)	48 (24.1)	56 (28.1)	199	
	70歳代	24▼ (10.0)	64△ (26.8)	19▼ (7.9)	62 (25.9)	70 (29.3)	239	
	80歳以上	12 (24.5)	10 (20.4)	2 (4.1)	16 (32.7)	9 (18.4)	49	
	列計	134 (18.9)	134 (18.9)	88 (12.4)	163 (23.0)	190 (26.8)	709	$\chi^2=94.623$ p値<0.000
職業	会社員	27 (22.5)	15▼ (12.5)	22△ (18.3)	25 (20.8)	31 (25.8)	120	
	自営業	14 (15.1)	21 (22.6)	10 (10.8)	9▼ (9.7)	39△ (41.9)	93	
	パート・派遣等	33 (23.4)	22 (15.6)	24 (17.0)	32 (22.7)	30 (21.3)	141	
	主婦・主夫	27 (20.3)	16▼ (12.0)	17 (12.8)	36 (27.1)	37 (27.8)	133	
	無職	31 (15.8)	55△ (28.1)	12▼ (6.1)	54 (27.6)	44 (22.4)	196	
	列計	132 (19.3)	129 (18.9)	85 (12.4)	156 (22.8)	181 (26.5)	683	$\chi^2=54.063$ p値<0.000

※nは当該属性カテゴリ内の回答対象者数を表す。

※括弧内の数字は当該属性の総数nに占める割合を表す。

※各属性に関する無回答は除いている。

熱田区の地域課題とニーズおよび人的ストックの現状

表17 クラスタと世帯属性（居住学区・居住年数・世帯構成）の関係

	クラスタ					n	独立性の 検定結果	
	1	2	3	4	5			
居住地域								
高蔵	17 (20.0)	17 (20.0)	7 (8.2)	22 (25.9)	22 (25.9)	85		
旗屋	15 (23.8)	5▼ (7.9)	8 (12.7)	13 (20.6)	22 (34.9)			
白鳥	31 (25.2)	14▼ (11.4)	15 (12.2)	21 (17.1)	42△ (34.1)	123		
野立	17 (18.1)	15 (16.0)	20△ (21.3)	23 (24.5)	19 (20.2)			
大宝	13▼ (12.1)	25 (23.4)	8 (7.5)	31 (29.0)	30 (28.0)	107		
船方	31 (18.5)	39 (23.2)	21 (12.5)	42 (25.0)	35 (20.8)			
千年	12 (16.0)	19 (25.3)	12 (16.0)	12 (16.0)	20 (26.7)	75		
列計	136 (19.0)	134 (18.7)	91 (12.7)	164 (22.9)	190 (26.6)			$\chi^2=42.697$ p値=0.011
居住年数								
10年未満	22 (25.9)	8▼ (9.4)	21△ (24.7)	8▼ (9.4)	26 (30.6)	85		
10～20年	21 (23.3)	10▼ (11.1)	20△ (22.2)	18 (20.0)	21 (23.3)			
20年以上	94▼ (17.4)	116△ (21.5)	49▼ (9.1)	138△ (25.6)	143 (26.5)	540		
列計	137 (19.2)	134 (18.7)	90 (12.6)	164 (22.9)	190 (26.6)			$\chi^2=44.050$ p値<0.000
世帯構成								
単身	15 (22.7)	11 (16.7)	2 (3.0)	20 (30.3)	18 (27.3)	66		
夫婦のみ	39 (18.1)	45 (20.8)	18 (8.3)	53 (24.5)	61 (28.2)			
二世帯	62 (19.3)	55 (17.1)	50 (15.5)	72 (22.4)	83 (25.8)	322		
三世帯	16 (16.7)	19 (19.8)	20 (20.8)	15 (15.6)	26 (27.1)			
列計	132 (18.9)	130 (18.6)	90 (12.9)	160 (22.9)	188 (26.9)	700 $\chi^2=19.539$ p値=0.076		

※nは当該属性カテゴリ内の回答対象者数を表す。

※括弧内の数字は当該属性の総数nに占める割合を表す。

※各属性に関する無回答は除いている。

4. 考察・まとめ

本稿では、熱田区内で実施したアンケート調査の回答データに多重対応分析（および凝集型階層クラスタ分析）を適用し、熱田区民の生活上の困りごとや不満（地域課題）、「場」やサービスへのニーズ、人的ストックとしての可能性の3項目についての構造的・総合的な把握を試みた。

まず、多重対応分析により、問2～問4、および問6に対する回答データ（回答者）は4次元空間内の点の集まりとして要約され、それぞれの座標軸（主軸）には以下の解釈が与えられた。

さらに、回答者を4次元空間内の点として表すときの座標を変数として凝集型階層クラスタリングを適用し、回答者を、類似した回答パターンを持つ者同士の集まりとして5つのクラスターに分類した。

このうち、第1クラスターは、地域活動への関心が相対的に低い回答者のグループであり、全体の約20%の回答者が属している。割合としては決して小さくはなく、熱田区民の人的ストックとしての活用を図る際には、このクラスターに属する回答者の地域活動への興味・関心をいかに高めるかが重要となるであろう。また、クロス分析からは性別や年代などの属性との連関が示され、女性回答者と40歳代・60歳代の回答者が期待度数よりも有意に多いという結果が得られた。

一方、第2クラスターは、第1クラスターとは対照的に地域活動への関心が高いグループであり、特に防犯、交通安全、防災などといった地域の安全・安心に対するニーズを有している点が特徴的であった。クロス分析からは、40歳代の回答者や、会社員、主婦・主夫、居住年数が20年以下の回答者が（期待度数よりも）有意に少ない一方、男性回答者や、70歳代の回答者、無職者、居住年数が20年以上の回答者が有意に多いことが明らかになった。

地域活動への関心の高低についてこれら2つのクラスターの特徴を総合して考えると、地域活動に割ける時間の多寡が主要な要因であることが推察される。実際、60歳代以下の現役世代（第1クラスターで有意に多い）については仕事や家事・育児のために地域活動に割ける時間が必然的に少なくなるのに対し、定年退職者を多く含む70歳代以上の世代（第2クラスターで有意に多い）についてはそのような時間的制約が少ないことは明らかである。

第3クラスターは私的充足への関心を持つグループであり、特に子どもとスポーツ・運動に関する事柄への関心を抱いている。ただし、40歳代以下の子育て世代が相対的に多く属している（45.5%）

表18 4つの主軸の解釈一覧

軸	解釈（意味づけ）	負方向（左/下）	正方向（右/上）
第1主軸	地域活動への関心	低い関心	高い関心
第2主軸	自己実現欲求/安全欲求	自己実現欲求	安全欲求
第3主軸	私的充足/社会的充足への関心	私的充足への関心	社会的充足への関心
第4主軸	地域の「内のつながり」/「外とのつながり」への関心	「内のつながり」への関心	「外とのつながり」への関心

ことを考慮すると、スポーツ・運動への関心も子どもへの関心と結びついているものと推察される。なお、熱田区には多くの公園があり、特に旗屋学区の熱田神宮公園は球技場やテニスコート、児童園などを備えている。これらの公共施設をより有効に活用することで、第3クラスターに属する回答者が有するニーズを充足できる可能性がある。

第4クラスターは、地域の「内のつながり」への関心と「自己実現欲求」によって特徴づけられるグループである。具体的には、災害時の対応や高齢者および障害者に対するケア、自宅以外の居場所などへの関心を有しており、文化・芸術、スポーツなどの趣味・教養の充実や他者との交流を希求している。40歳代以下の若い世代の割合が少なく、高齢層が多く属していることがこのような特徴と関連していると考えられる。

第5クラスターは、第4クラスターとは対照的に地域の「外とのつながり」に対する関心を有するグループであり、最も多くの回答者が属している。より具体的には、国際交流や観光、飲食店などに関連するニーズを有しており、特に観光に関しては、自営業者の比率が他のクラスターに比べて高いこととの関連が推測される。また、国際交流に対するニーズや参加意向について、名古屋国際会議場や名古屋学院大学¹¹⁾などの施設が熱田区内に立地していることの影響が考えられるとともに、ニーズや意向の充足を図る上でもこれらの施設が一定の役割を果たすことが期待される。

以上の通り、アンケート調査における多様な回答パターンを4つの軸と5つのグループに集約することで、熱田区の地域課題や区民のニーズ、人的ストックとしての可能性について構造的かつ総合的に把握することができた。本稿で得られたこのような要約・分類は、地域課題の解決やニーズの充足、人的ストックの活用実際に取組む上で有用な資料となろう。ただし、第2章1節でも述べた通り、今回のアンケート回答者の年齢分布においては、30歳代以下の割合が実際の分布よりも低く、60歳代・70歳代の割合が高いため、若い世代の意向や傾向が十分にくみ取れていない一方、高齢層の回答結果が実際よりも強く反映されている可能性がある点に留意が必要である。また、複数の設問に対する回答データを総合して低次元の空間に要約するという方法上、個々の設問同士の連関や属性変数との連関について、その細部にまでは十分な把握・分析が至らない。この点を補うためには、設問ごとのクロス分析などを別途行う必要がある。

最後に、「はじめに」でも述べた通り、熱田区の空間・時間・人間（人材）等のストックについて調査・研究する上では、区民だけでなく、区内に立地している事業所もまた重要な対象である。このような考えの下、区内の事業所を対象とするアンケート調査を2020年度に実施しているが、その分析および事業所保有のスキルや資源のシェアリングによる地域のエンパワーメントについての論考は次稿にて行う予定である。

11) 2022年現在、外国語学部、国際文化学部、留学生別科を設置している。

参考文献

海外：

Hjellbrekke, J. (2018) *Multiple Correspondence Analysis for Social Sciences*, Routledge

Le Roux, B. and Rouanet, H. (2009) *Multiple Correspondence Analysis*, SAGE Publications, Inc.

(大隈昇・小野裕亮・鳩真紀子(共訳)(2021)『多重対応分析』オーム社)

国内：

熱田区(2020)「熱田区の世帯数と人口一令和元年人口動向調査」熱田区公式WEBサイト <https://www.city.nagoya.jp/atsuta/cmsfiles/contents/0000037/37301/R1setaisuutojinkou.pdf> (最終閲覧日：2022年7月31日)

杉浦礼子・佐藤律久・井澤知旦(2022)「公共施設・公共空間の有効活用研究 報告書(2019～2021年度)」名古屋学院大学

付録：アンケート設問一覧および調査票見本

表19 アンケート項目一覧

設問番号	設問内容	回答種別	選択肢数
問1	居住地区（小学校区）	単一	7
	居住年数	単一	5
	世帯構成	単一	5
問2	地域で生活する中での困りごとや不満	複数	20
問3	利用したい場やサービス:暮らしに関するもの	3つまで	14
	利用したい場やサービス:地域コミュニティに関するもの	3つまで	14
	利用したい場やサービス:まちづくりに関するもの	3つまで	14
問4	居住地域の地域活動への参加頻度	単一	5
問5	地域活動に参加していない理由	複数	11
問6	今後参加してみたい地域活動	複数	19
問7	地域活動に参加できそうな頻度	単一	6
	地域活動に参加できそうな曜日	複数	2
	地域活動に参加できそうな時間帯(平日)	複数	3
	地域活動に参加できそうな時間帯(休日)	複数	3
問8	アンケート回答者が持っている資格	自由記述	—
	アンケート回答者が得意とすること・経験	自由記述	—
	アンケート回答者の家族が持っている資格	自由記述	—
	アンケート回答者の家族が得意とすること・経験	自由記述	—
F	年齢	単一	2
	性別	単一	8
	職業	単一	9

熱田区の暮らしと地域活動に関する アンケート調査 ～ご協力のお願～

熱田区民の皆様

時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、このたび私ども名古屋学院大学では、本学が所在する熱田区において、地域の課題解決と地域の価値向上を目的に、多様な視点からの様々な実証研究を進めております。

特に、熱田区は、高齢者や子育てへの支援、防犯対策、災害対策などの面で大きな課題を有し、対応が求められています。一方で、本学をはじめ、国際会議場や白鳥庭園など大規模かつ多様な公共施設や公共空間が集積しており、大きな特長となっています。また、地域には様々な技能をお持ちの皆様がお住まいになっています。本学では、これらの公共施設・公共空間を有効活用するとともに、地域の人材と協力・連携することで、地域が抱える多様な課題の解決につなげていけるのではないかと考え、地域人材と連携した公共施設の新しい運用システムの展開に向けた研究をはじめることと致しました。

つきましては、この熱田区で暮らす皆様を対象に、ご意向をアンケート調査を通じてお伺いし、その結果を踏まえて、より地域に寄り添った研究と実際の展開につなげていきたいと考えています。

お忙しいところ大変恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

なお、本アンケート調査は無記名で行い、結果は統計的に処理されますので、お答えいただいた方にご迷惑をおかけすることは一切ございません。

2019年10月

名古屋学院大学 私立大学研究ブランディング事業
「公共施設・公共空間の有効活用研究」担当チーム

記入にあたってのお願い

- ・調査票へのご記入は、世帯のどなたでも構いません。
- ・記入の方法は、該当する番号を1つ選んで○で囲んでください。数が指定されている場合は、その数だけ選んで、番号を○で囲んでください。
- ・お答えに該当するものがない場合は、「その他」に具体的に記入してください。
- ・記入後は、本学宛の返信封筒に入れて、切手を貼らずに、**12月15日(日)までに、投函してください。**

調査主体

名古屋学院大学 商学部 担当：杉浦
名古屋市熱田区熱田西町1番25号
TEL 052-678-4080
E-mail sugiura@ngu.ac.jp

お問い合わせ先《調査実施機関》

(株)都市研究所スペースシア 担当：櫻井、西田
名古屋市中区栄五丁目1番32号
TEL 052-242-3262
E-mail nishida@spacia.co.jp

I お住まいの地域での暮らしについて

問1 あなたの現在のお住まいの状況をお教えてください。(それぞれ1つに○)

居住地区 (小学校区)	1. 高蔵 5. 大宝 ※学区が分からない方は住所をお書きください(番地までは不要) →熱田区()	2. 旗屋 6. 船方	3. 白鳥 7. 千年	4. 野立
居住年数 ※熱田区内での居住	1. 1年未満 5. 20年以上	2. 1~3年	3. 3~10年	4. 10~20年
世帯構成	1. 単身 4. 三世代(親・子・孫など)	2. 夫婦のみ	3. 二世代(親・子)	5. その他()

問2 この地域で生活する中で、あなたが感じている困りごとや不満は何ですか。(○はいくつでも)

1. 地域や近所の人との付き合いが少ない	11. 自宅以外に気軽に過ごせる場がない
2. 地域のことをよく知らない	12. 近くで買い物や飲食店が少ない
3. 町内会など地域活動の負担が大きい	13. 近くで働く場が見つからない
4. 身近に話し相手や相談相手がいらない	14. 身近に趣味を楽しむ場がない
5. 交通手段が不便で、外出しづらい	15. 身近に文化芸術に触れる場がない
6. 体が思うように動かず、生活に不安	16. 身近にスポーツや運動できる場がない
7. 介護や子育ての負担が大きい	17. 地域の歴史や文化を感じられない
8. 緊急時や休日、放課後などに子どもを預ける所がない	18. 外国人が増え、コミュニケーションが不安
9. 子どもが安心して遊べる場が少ない	19. 災害時の対応が不安
10. 子連れで気軽に出かけられる場が少ない	20. 身近での犯罪発生が多く、不安
その他	

問3 お住まいの地域に、どのような場やサービスがあれば利用したいと思いますか。

(1)~(3)のそれぞれからあてはまるものを選んでください。

(1)暮らしに関するもの(○は3つまで)

1. 話し相手のボランティア	9. 子どもがのびのびと遊べる場
2. 送迎や付き添いなど外出時の支援	10. 子連れでも気軽に入れる飲食店
3. 高齢者世帯の見守り	11. 託児所や学童保育、ベビーシッターなどの 子どもの受け入れ施設
4. 掃除、洗濯、調理など日常生活の援助	12. 障害者や要介護者等が安心して過ごせる場
5. 移動販売や宅配など買い物の支援	13. 日常から離れてリフレッシュできる場
6. 身近で買い物できる場	14. ワークスペースや会議室など仕事に使える場
7. 登下校や公園などでの子どもの見守り	
8. 子育てに関する交流や相談の場	

(2) 地域コミュニティに関するもの (〇は3つまで)

- | | |
|-----------------------|---------------------|
| 1. 地域の相談窓口 | 8. 地域の担い手を育てる場 |
| 2. 近所や地域の人気軽集える場 | 9. 地域団体などの活動拠点や支援窓口 |
| 3. 世代の違う人が交流できる場 | 10. 地域ぐるみのイベントや祭り |
| 4. 若者同士が集える場 | 11. 地域に立地する企業と接する場 |
| 5. 外国人との交流の場 | 12. 安否確認など災害時の助け合い |
| 6. 誰もが気軽に過ごせる居場所 | 13. 防犯パトロール |
| 7. 地域情報の入手や発信、PRしやすい場 | 14. 外国語の通訳や翻訳 |

(3) まちづくりに関するもの (〇は3つまで)

- | | |
|-----------------------|------------------------|
| 1. 地域の歴史や文化を学べる場 | 8. スポーツや運動ができる場 |
| 2. 観光客が気軽に立ち寄れる店 | 9. 文化芸術に触れられる場 |
| 3. 観光情報の入手や発信ができる場 | 10. 講座や教室などの生涯学習の場 |
| 4. 地域外から大勢の人が集まるイベント | 11. DIYなどモノづくりができる場 |
| 5. 自分で作った物などを販売できる場 | 12. 緑や水、生き物など自然豊かな環境 |
| 6. 雨の日でも遊びやイベント等に使える場 | 13. 主要施設間の移動に便利な交通サービス |
| 7. 堀川などの水辺に親しめる場 | 14. 災害時の避難場所 |

その他に、あるとよいと思う場やサービスがあれば、ご自由にご記入ください。

II 地域活動へのかかわりについて

問4 現在、あなたはお住まいの地域の地域活動に参加していますか。(1つに〇)

- | | |
|----------------|------------|
| 1. よく参加している | 4. 参加していない |
| 2. 時々参加している | 5. わからない |
| 3. ほとんど参加していない | |

問5 問4で「3. ほとんど参加していない」「4. 参加していない」と答えた方にお聞きします。
地域活動に参加していない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

- | | |
|----------------|----------------|
| 1. 忙しくて時間がない | 7. 会費等の負担がかかる |
| 2. 活動内容をよく知らない | 8. 知り合いや仲間がいない |
| 3. 参加するきっかけがない | 9. 役員をやりたくない |
| 4. 関わり方がわからない | 10. 特になし |
| 5. 体力や健康に自信がない | 11. その他 () |
| 6. 関心や興味がない | |

問6 全員にお聞きします。

あなたが、今後参加してみたいと思う地域活動はありますか。(〇はいくつでも)

1. まちづくり	8. 文化、芸術	15. 歴史文化の保全・継承
2. 防犯	9. スポーツや健康づくり	16. 観光振興
3. 交通安全	10. 環境保全・自然保護	17. 活動分野は決めていない
4. 防災	11. 国際協力、国際交流	18. 地域活動に参加したいと思わない
5. 子育て支援	12. 男女共同参画社会の形成	19. わからない
6. 青少年の育成	13. 福祉・介護	
7. 生涯教育	14. 保健・医療	
その他		

問7 問6で「1」～「16」に回答した方にお聞きします。

あなたが地域活動に参加できそうな頻度、曜日、時間帯はどのあたりですか。(あてはまるものに〇)

頻度	1. ほぼ毎日	3. 月に数日	5. 年に数日
	2. 週に数日	4. 月に1日	6. わからない
曜日と時間帯	1. 平日 → (1. 午前 2. 午後 3. 夜間)		
	2. 休日 → (1. 午前 2. 午後 3. 夜間)		

問7 全員にお聞きします。

あなたとご家族の方がお持ちの資格、また得意なことや経験などで、地域活動に活かせるものがありましたら、どういふものでも構いませんので、お教えてください。

		資格	得意なことや経験など
回答欄	ご本人		
	ご家族		
(例)		教員、調理師、保育士、中小企業診断士、介護福祉士、英検、建築士、防災士など	サッカー、子育て、手芸、料理、パソコン、スペイン語、地域の歴史、デザインなど

IV あなたご自身について

(それぞれ1つに〇)

年齢	1. 男性	2. 女性		
性別	1. 10代	2. 20代	3. 30代	4. 40代
	5. 50代	6. 60代	7. 70代	8. 80歳以上
職業	1. 会社員	2. 公務員	3. 自営業	4. 派遣・契約社員
	5. パート・アルバイト		6. 主婦・主夫	7. 学生
	8. 無職	9. その他 ()		

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。調査票は返信用封筒に入れて、投函ください。